

夏休みが終わり、2週間弱が経ちました。久しぶりに始まった学校生活と長引く残暑で、疲れが貯まっていることと思います。

今月は名川秋まつり、部活動の新人戦、就職試験、第2回考査など、行事が盛りだくさん。その日の疲れを翌日に持ち越さないよう、生活リズムの見直しと体調管理の徹底を心がけましょう！



『厚生労働大臣表彰』を受賞しました！

このたび、献血運動推進への貢献が認められ、本校が『厚生労働大臣表彰』を受賞しました。この賞は、永年にわたり献血に積極的に協力し、他の模範となる実績を示した団体や個人に贈られるものです。

本校では、これまで永年にわたり生徒・職員のみなさんが献血活動に協力してきました。今回の表彰は、生徒、教職員の“助け合いの精神”の表れでもあります。



献血は、学生が直接参加できる身近なボランティア活動ですが、社会人として羽ばたいた後も、継続的に献血活動が根付いてほしいと願っています。

そして、本活動を通して“助け合い精神”が高まりますよう、引き続き活動に協力していきたいと思えます。

その一歩が、誰かの一生になる



本校に 献血バスが来ます！

献血は、病気の治療や手術などで血液を必要としている患者さんの“尊いいのち”を救うために、自ら進んで血液を提供する“身近なボランティア”です。

来月、再度連絡して参加者を募集します。ぜひ、ご協力よろしくお願ひします。

【日にち】 10月17日(木)

【時間】 13:15~15:15 ※授業は「公欠」

【対象】 2・3年生



積極的な HPV ワクチン接種を！

＼ 公費による ／
HPV ワクチンの「キャッチアップ接種」は
2025年3月末まで！

接種は**合計3回**で、完了するまでに約6ヶ月間かかるため、
期間内に終わるためには、**今年の9月末までに1回目を受ける**必要があります。

対象となる方々について

- ・平成9年度～平成19年度生まれ（誕生日が1997/4/2～2008/4/1）の女性。
- ・過去に HPV ワクチンの接種を3回受けていない。

子宮頸がんとは？

- ・日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約2,900人の女性が子宮頸がんで亡くなっています。
- ・患者は20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなってしまう）人も、1年間に1,000人います。



子宮頸がんにかかるのはなぜ？

HPV(ヒトパピローマウイルス)が子宮の入り口(=子宮頸部)の細胞に長い期間感染すると、数年から十数年にかけて子宮頸がんを発症してしまいます。
※ HPVは、一度でも性的接触の経験があれば誰でも感染する可能性があります。

子宮頸がんで苦しまないために

- 1 HPVワクチン ▶ HPVの感染を予防
- 2 子宮頸がん検診 ▶ がんを早期発見して治療
▶ 20歳以上の方は、定期的な受診を

HPV ワクチンの効果と安全性

効果	安全性
17歳までに、4価の HPV ワクチン(4種類の HPV を防ぐ)を 3回接種 することで、将来子宮頸がんの約88%を予防することができる。 	HPV ワクチンは 2019 年までに、世界で合計約5億回以上接種されている安全なワクチン。 数多くの研究で、「特別に副反応が起こりやすいわけではない」ことが証明されている。 